



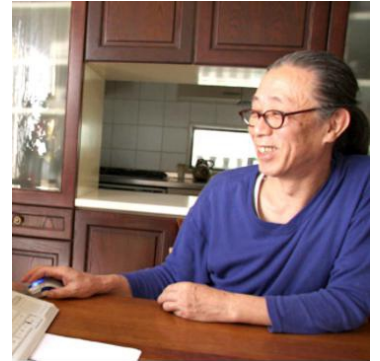
ちょっとそこまで～お散歩日和（地域編）～



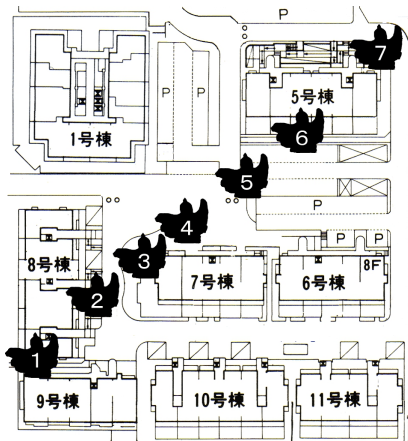
団地オブジェ（その2）

僕の名前の「雅」にはカラスの意味があります。僕の彫刻はカラスかなあと思います。

（心がけているのは）路傍の道祖神やお地蔵さんのようなものだと思って作っています。公園のシンボルじゃなくて、マスコット。最初にカラスの話をしました。道祖神やお地蔵さんも毎日の暮らしと密接につながっていますよね。僕が作った彫刻たちも、雨風に耐えて汚れたり壊れたりしながらも、その場所で生きていてほしいと思っています。



美術館や博物館に置かれているものを見ると、きちんとケースに納まって、ふれることができません。なんだか「お墓参り」のようだなと。



西洋陶磁器は、完璧ゆえにちょっとキズが付くと台無しに感じられます。一方、日本の焼き物は、欠けた部分や金継ぎ修理したところがむしろ味わい深く感じられるんです。僕は、焼き物のように、その場所で暮らす人たちとともに生き、思い出の1ページに描かれた落書きみたいな彫刻を作っていきたいと思っています。

以上は、「杉並区公式情報サイト：すぎなみ学倶楽部」に掲載された志津雅美氏のコメントです。

<https://www.suginamigaku.org/2014/10/shizu-masami.html>

彼の名前を聞いて、すぐにピンと来る人はそう多くはないでしょう。当団地を南西から北東にかけて1直線に貫いた位置に設置されているオブジェ「遷移鳥」の作者です。全部で7体あります。



このことについては、ホームページに「オブジェ紹介」ページを設けていますので、ご参照ください。

<https://ichou-douri.com/WordPress/obje/>

なお、志津氏のホームページを閲覧しておりますと、次のURLのページに、当団地宛のメールがそのまま掲載されておりました。彼の歴史を刻む一助を我々が成したのかと思うと、心踊ります。

<https://sizumasami9.webnode.jp/words/>

当時の経緯が思い出されて、じつに心浮き立つ気分になります。記憶に間違いがなければ、2007年度の根本理事長時代のことだったと思います。まだ当時のホームページは試作段階で、ICT委員会も、IT委員会から名称を変え、新しい理念のもとに発足したばかりでした。閲覧数を増やすために、どうすればよいのか構想を練り、必死に形式を整え、コンテンツを増やしていく努力をしていた頃です。

そんな中、一連のオブジェに明確なコンセプトがあることに気付いたのです。それまでは、団地の敷地内のあちこちに可愛らしい小鳥像が置かれていることは分かっていました。しかし、その全てを俯瞰して見てみようとは思っていませんでした。軽い気持ちで、ホームページに紹介コラムを掲載しよう

と図面に配置してみて、初めて一直線に配置されていることに気付いたのです。

並行して、J A（住宅管理協会）を通して、公団の施行担当者から、このオブジェの作者の名前を伺っていました。しかし、「しずまさみ」という名前をいくら検索しても何もヒットしません。途方に暮れるとともに、成す術もなく、しばらく放っておいたのは言うまでもありません。

ところが、ひょんなことから道が開かれます。ICT委員会のメンバーの1人の奥様が、「しず」ではなく、「しづ」ではないかと閃いたのです。これで一転して、検索にヒットすることができました。

そこからは、数少ない情報をもとに、何とか作者にコンタクトを取ろうとあがきました。詳細は覚えていませんが、本人への連絡先を探り当ててメールを送信し、お返事をいただいたという次第です。その手紙の文面がホームページに掲載されているものです。苦労しただけに今でも愛着を感じています。

さて、その手紙文にある、「光が丘にある4つの作品」を見ていきましょう。もちろん、その1つが当団地の「遷移鳥」ですから、残り3つということになります。

まず、板橋区立赤塚新町公園のブロンズ少女像(1983)です。この公園は、光八小の北側にあります。もっと分かりやすく言えば、TSUTAYA光が丘店前の信号を東に入ったところです。



ここで注目したいのは、少女が右手にひな鳥を抱え（？）て、何か呼びかけている姿です。向かいの茂みには母鳥とひな鳥がいて、少女の方を見ているのですが、一体どんなドラマがあるのでしょうか。想像を膨らませるに十分です。

じつは、この公園にはもう1つ面白いものがあります。こんこんと湧き出る湧水です。もちろん、今の時代、湧水は枯れていますので、井戸を掘ってポンプで吸い上げているのですが、肝心なことは、その昔、ここが百々向（すずむき）川の源流だったということです。



この川は、成増小学校脇から成増駅北口の西友店を通して白子川に注いでいました。現在は暗渠になり、一部は遊歩道となっていますが、くねくねと入り組んだ地形を縫って流れていくので、なかなか興味の尽きない散歩道となっています。いずれこのコラムでも紹介したいと思います。ご期待あれ。

次は、春の風公園の園名石(1985)です。この公園には、いくつか園名石があるのですが、どれも活字体なので面白味がありません。しかし、この地のものだけは味わいがあります。カエル池の入り口です。



最後が、光が丘公園の園名石(1988)です。これは、光が丘の住民であれば、誰もが日常的に目にしているものでしょう。月見大橋を渡ってすぐ、まさに光が丘の入り口に位置しています。



石材は万成（まんなり）石です。万成とは産地名の岡山市万成地区に由来する花崗岩のことです。一般的には桜御影と呼ばれ、薄桃色の墓石が好まれて使われます。最も親しまれているのは、銀座和光ビルの外壁を飾っていると言えばイメージしやすいかもしれません。

残りの紙幅を使って紹介したいことがあります。志津氏の作品群に、「遷移鳥」を想起させるものが数多くあることです。どれがというわけではないでしょうが、彼の着想や発想に流れを感じます。その奔流の中に「遷移鳥」が位置していることは間違いありません。



次の4枚を見てください。種子から芽が出て、やがて花を咲かせていく様子を描いています。同じ年の設置ですから、タイミングが違えば、遷移鳥に代わって、このオブジェが当団地に飾られていたかもしれません。そう思うと、愉快ではないでしょうか。設置場所は、神奈川県伊勢原市大住台団地です。



続いては、遷移鳥にとってもよく似た造形の作品群を見てみましょう。



散策を兼ねて、彼の作品を追いかけてみたいものだと思います。

（終）